

令和2年(2020)9月 入域観光客数概況

22万7,600人
対前年(R1)同月比 -58万1,700人、-71.9%
～9月としては対前年同月比で減少数、減少率ともに過去最大～

入域状況

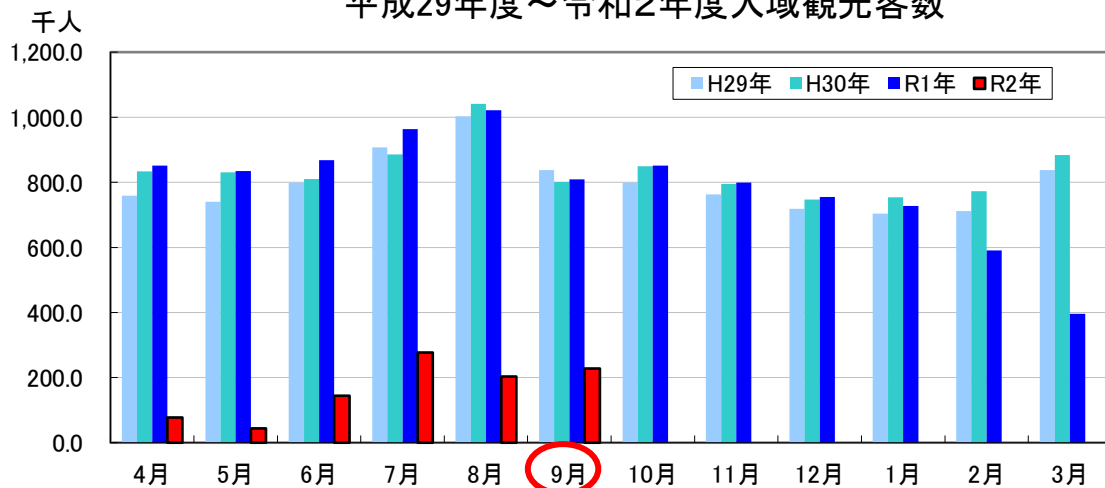
入域観光客数(令和元年度との比較) ※外国客については、乗務員等を**含む**

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
国内客	227,600 人	590,600 人	△ 363,000人	△ 61.5%	100.0%
外国客	0 人	218,700 人	△ 218,700人	皆減	0.0%
合計	227,600 人	809,300 人	△ 581,700人	△ 71.9%	100.0%

【参考】入域観光客数(令和元年度との比較) ※外国客については、乗務員等を**除く**

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
国内客	227,600 人	590,600 人	△ 363,000人	△ 61.5%	100.0%
外国客	0 人	188,200 人	△ 188,200人	皆減	0.0%
合計	227,600 人	778,800 人	△ 551,200人	△ 70.8%	100.0%

平成29年度～令和2年度入域観光客数



国内客 入域状況

9月は、持ち直しの動きがみられたものの、「沖縄県緊急事態宣言」の期間が9月5日まで及んだことや航空路線で運休・減便が再び拡大されたことなどから、前年同月を大きく下回った。

10月は、Go To トラベル事業の対象に東京都が追加されたことや航空路線の新規開設があることから、一定の回復が期待されるものの、航空路線の運休・減便が継続予定であることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

外国客 入域状況

9月は、新型コロナウイルス感染症の拡大の防止の観点から、引き続き台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域から日本への入国制限措置がとられたことなどから、皆減となった。

10月も台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域から日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

国内客 地域別入域状況

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	120,800 人	296,100 人	△ 175,300人	△ 59.2%	53.1%
関西方面	50,400 人	122,000 人	△ 71,600人	△ 58.7%	22.1%
福岡方面	26,800 人	72,600 人	△ 45,800人	△ 63.1%	11.8%
名古屋	18,600 人	48,500 人	△ 29,900人	△ 61.6%	8.2%
その他	11,000 人	51,400 人	△ 40,400人	△ 78.6%	4.8%
合計	227,600 人	590,600 人	△ 363,000人	△ 61.5%	100.0%

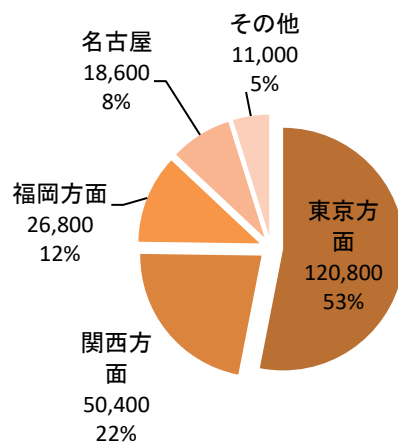
※国内海路客1,000人を含む(鹿児島1,000人)

外国客 国籍別入域状況

増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R2年度	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	0 人	0 人	79,600 人	△ 79,600人	皆減	N/A
韓国	0 人	0 人	8,400 人	△ 8,400人	皆減	N/A
中国本土	0 人	0 人	65,300 人	△ 65,300人	皆減	N/A
香港	0 人	0 人	21,300 人	△ 21,300人	皆減	N/A
アメリカ	0 人	0 人	2,900 人	△ 2,900人	皆減	N/A
タイ	0 人	0 人	2,200 人	△ 2,200人	皆減	N/A
シンガポール	0 人	0 人	1,600 人	△ 1,600人	皆減	N/A
その他	0 人	0 人	37,400 人	△ 37,400人	皆減	N/A
合計	0 人	0 人	218,700 人	△ 218,700人	皆減	N/A

国内客の地域構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
韓国	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
中国本土	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
香港	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
アメリカ	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
タイ	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
シンガポール	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
その他	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
合計	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A

各方面ごとの概況と見通し

東京

9月は、前年同月比で59.2%減の120,800人であった。羽田－石垣線などの本土と先島諸島を結ぶ路線で持ち直しの動きがみられたものの、羽田－那覇路線などで減便拡大があったことなどから、前年同月を大きく下回った。

10月は、10月1日からGo Toトラベル事業の対象に東京都が追加されたことや10月25日から羽田－下地島路線が新規開設がされることから一定の回復が予想されるものの、羽田－那覇路線などで減便が継続されていることなどから厳しい状況が続くと予想される。

関西

9月は、前年同月比58.7%減の50,400人で、主要方面別で最も減少率が低かった。関西－石垣路線などの本土と先島諸島を結ぶ路線で持ち直しの動きがみられたものの、関西－那覇路線などで減便拡大があったことなどから、前年同月を大きく下回った。

10月は、10月25日から神戸－下地島路線が新規開設されるものの、関西、神戸－那覇路線などで減便が継続されていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

福岡

9月は、前年同月比63.1%減の26,800人で、主要方面別では最も減少率が高かった。福岡－石垣路線で持ち直しの動きがみられたものの、福岡－那覇路線などで減便拡大があったことや北九州－那覇路線で運休されたことなどから、前年同月を大きく下回った。

10月は、福岡－那覇路線などでの減便が継続されていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

名古屋

9月は、前年同月比61.6%減の18,600人であった。中部－石垣などの本土と先島諸島を結ぶ路線で持ち直しの動きがみられたものの、中部－那覇路線の減便拡大があったことなどから、前年同月を大きく下回った。

10月は、中部－那覇路線で減便が継続されていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

台湾

9月も台湾(台北、台中、高雄)－沖縄(那覇、石垣)4路線が全て運休になっていること、また、3月17日以降、日本への渡航警戒レベルが引き上げられていることに加え、4月3日以降、台湾が入国制限措置の対象となっていることなどから、前年同月79,600人から皆減となった。

10月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本へ入国制限措置が引き続き見込まれることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

韓国

9月も韓国(ソウル、釜山、大邱)－那覇3路線が全て運休になっていること、日本において4月3日以降、韓国が入国制限措置の対象となっていることなどから、前年同月8,400人から皆減となった。

10月は、航空路線の運休や3月9日以降の韓国からの航空便の到着空港限定、日本への入国制限措置が引き続き見込まれることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

中国本土

9月も、中国(上海、北京、天津、杭州、南京、重慶)－那覇6路線が全て運休になっていること、また、4月3日以降、中国が入国制限措置の対象となっていることなどから、前年同月の65,300人から皆減となった。

10月は、航空路線の運休や3月9日以降の中国からの航空便の到着空港限定、クルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続き見込まれることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

香港

9月も香港－沖縄(那覇、石垣、下地島)3路線が全て運休になっていること、また、3月17日以降、香港政府が海外への渡航レベルを引き上げ自粛を要請していることに加え、4月3日以降、香港が入国制限措置の対象となっていることから、前年同月の21,300人から皆減となった。

10月は、日本への入国制限措置の対象地域とされていること、また、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止が引き続き見込まれることなどから、厳しい状況が続くと予想される。